

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における

沖田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

沖田 中学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
数学A	全国平均正答率を下回っている。
数学B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	数学A	数学B
平成24年度	本市	73.5	61.1	58.6	43.8
	全国	75.1	63.3	62.1	49.3
平成25年度	本市	74.7	65	60.3	38.2
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5
平成26年度	本市	77.2	47.6	62.4	54.4
	全国	79.4	51	67.4	59.8

② 学力調査結果の分析

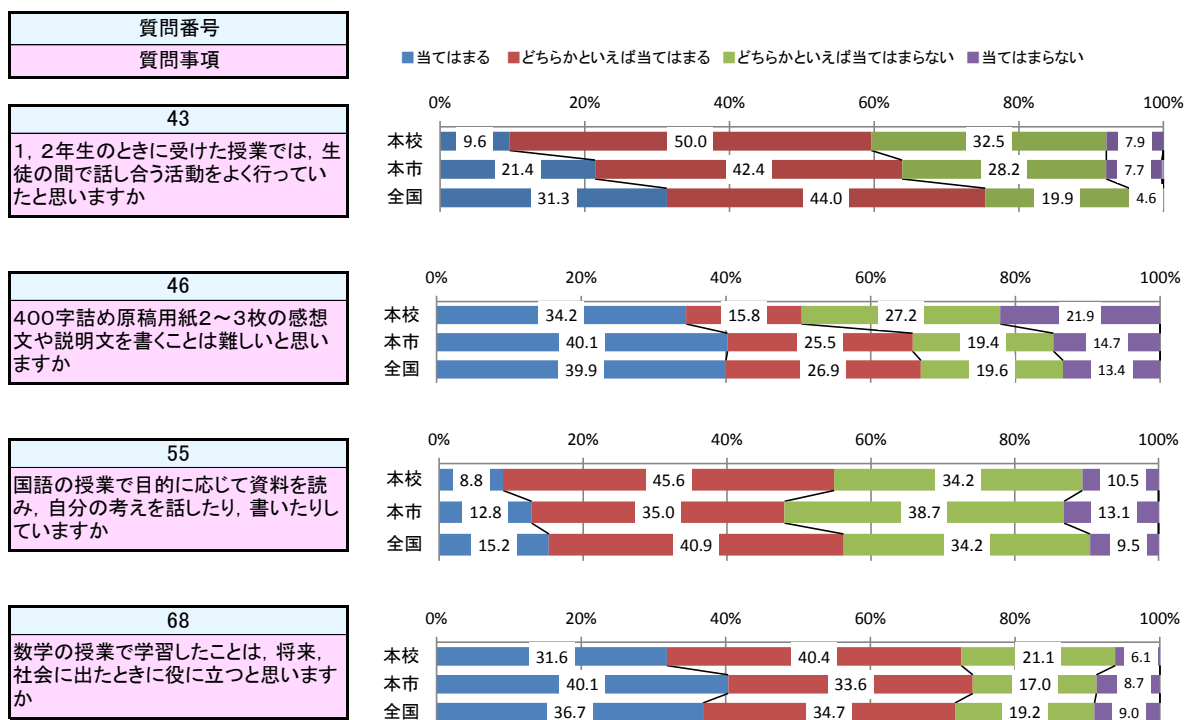
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、「読むこと」に関する領域は全国平均正答率より上回っている。 ・短答式で答える問題に関しては、無解答率が全国より大きく、自分の考えをもつことや、考えようとする姿勢が不足していると思われる。
	よくできた問題	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く問題は、正答率が低く、無解答率が高い。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っている。 ・記述式で答える問題に関しては、特に正答率が低い。
	よくできた問題	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する問題の正答率が若干高い。
	努力が必要な問題	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く問題の正答率が低く、無解答率が高い。

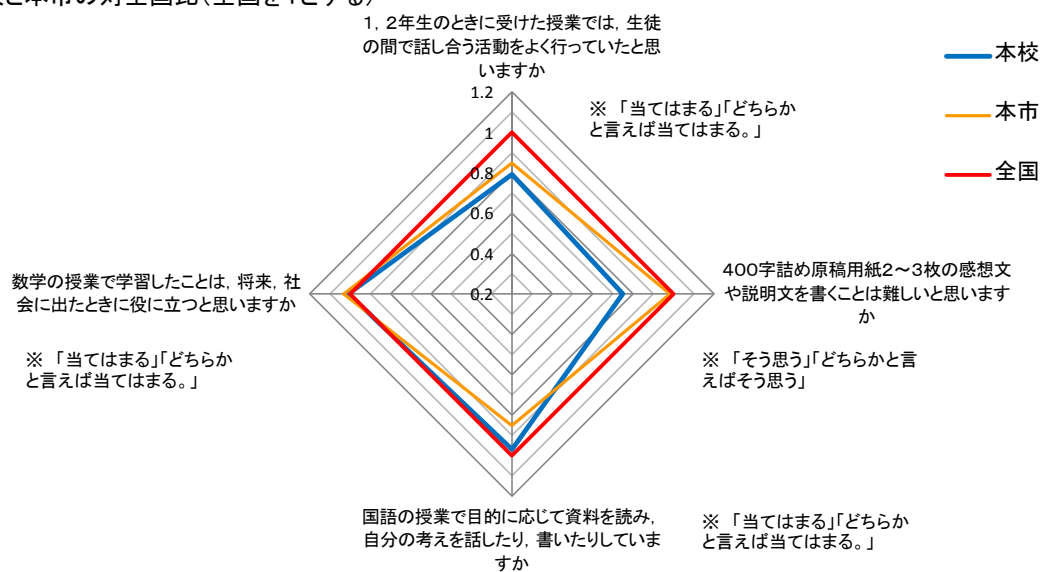
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っている。 ・「資料の活用」の領域に於ける正答率が全国より低い。 ・4領域すべてにおいて、全国平均正答率を下回っている。
	よくできた問題	絶対値の意味を理解している問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	度数分布表から相対度数を求めることができる問題は、正答率が低く、無解答率が高い。

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っている。 ・「数と式」の領域に於ける正答率を若干上回っている。 ・特に、「資料の活用」の領域に於ける正答率が低い。
	よくできた問題	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読みとることができる問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる問題は正答率がかなり低く、無解答率が多い。

③ 学校での学習状況に関する調査結果



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

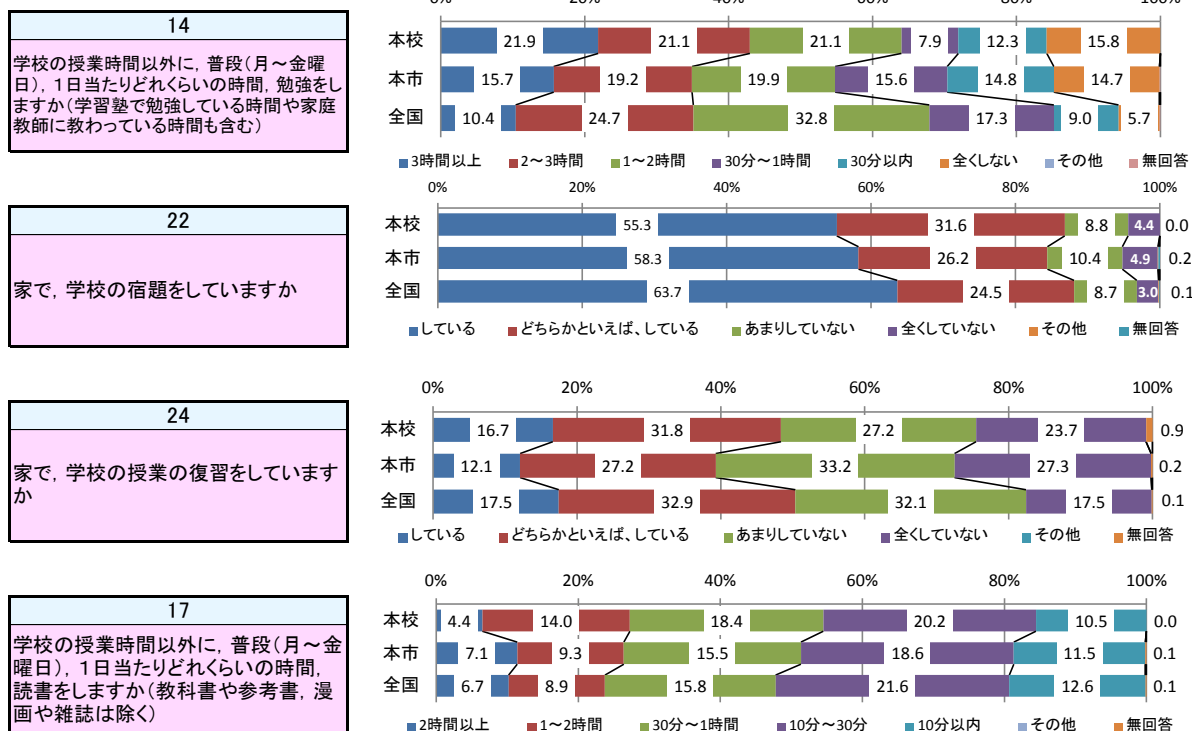


⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

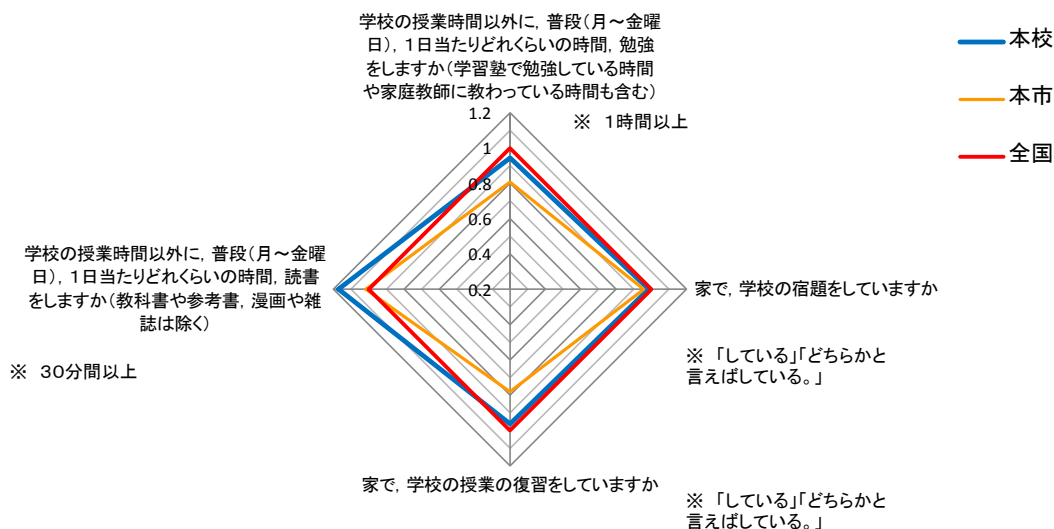
- ・原稿用紙を使って作文や感想文を書かせる機会を多く持つことで、生徒の意識が変化している。今後も継続して指導を行い、書く力をつけさせたい。
- ・話し合い活動は、全国や市の平均には及ばないが、職員研修等で、授業改善や授業研究を行うことで、年々活動する機会が増加してきている。授業のみならず、教育活動全体の中で、話し合い活動を推進していく必要がある。
- ・日ごろの指導により、「無解答」の割合が減り、自分の意見や考えを表そうとする生徒が増えてきた。
- ・学習の内容や習慣が、「将来の自分のため」という意識はある。志を高く持つ生徒の育成を目指していきたい。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

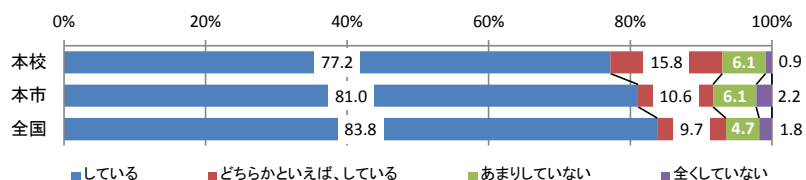


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

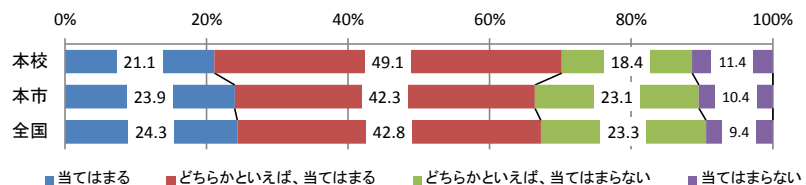
- ・学校の授業時間以外で、普段の1日当たりの勉強時間が、長い生徒は多いが、全くしない生徒もかなりいる。
- ・家庭での学習や授業の復習を全くやっていない生徒の割合が全国より多く、全くやっていない生徒への手立てが必要である。
- ・テレビやDVDを見たり、ゲームをしたりする時間が長い。
- ・計画を立て、学習している生徒が少ない。

④ 生活習慣等に関する調査結果

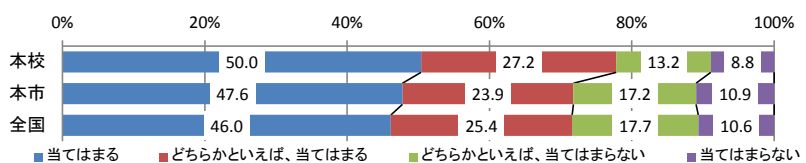
1
朝食を毎日食べていますか



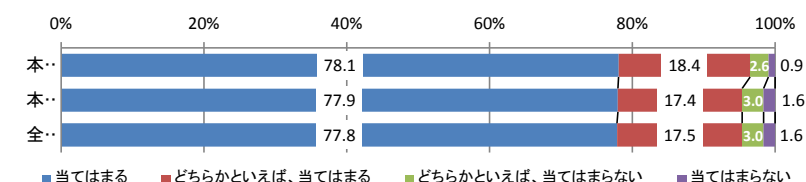
6
自分には、よいところがあると思いますか



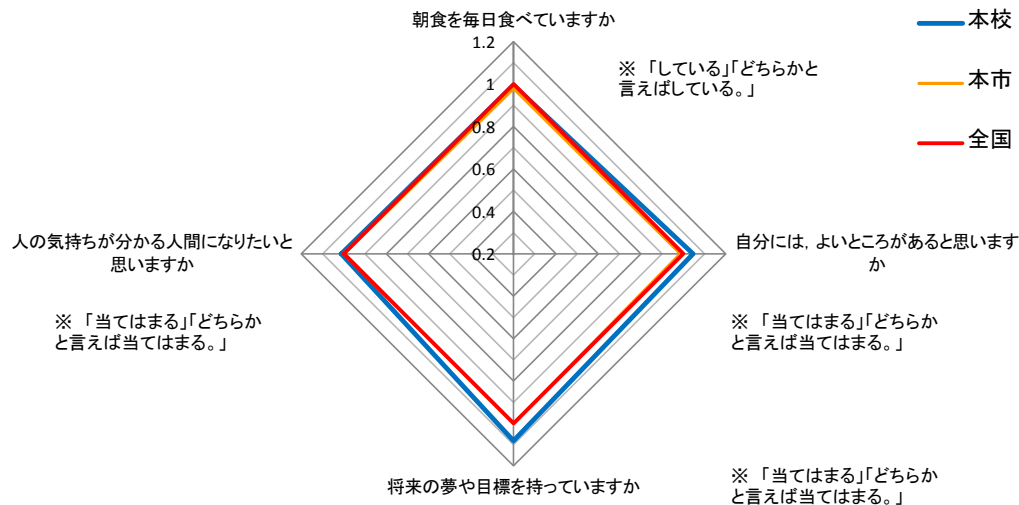
10
将来の夢や目標を持っていますか



36
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

※「◎」は現在取り組んでいること「○」は今後取り組むこと「・」は事例

- ◎毎朝8時30分より「黙想タイム」を実施し、一日の目標を立てて、落ち着いた学校生活を送るように指導している。
- 規則正しい生活習慣を、生活委員会・保健厚生委員会等が呼びかけ、全校集会等で発表報告する。
 - ・遅刻点検
 - ・給食指導
 - ・残食調査と残食0(ゼロ)に向けた呼びかけ

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎学力向上のための朝自習、補充学習の見直し
 - ・定期考査予想問題の作成 ・朝自習コンクールの実施 ・学習定着を図る小テスト ・放課後の補充学習
- 学力向上に関する職員研修および公開授業
 - ・職員間で授業参観を行い、「アドバイスシート」を活用する。
 - ・グループ学習やペア学習など取り入れ、授業形態の工夫から、生徒に意欲を持たせる。
- 過去問題・CRTアシストシート・Web問題の活用
 - ・単元末に過去の入試問題やWeb問題等を位置づけ活用する。
 - ・定期考査前に十分な計画の立て方を指導し、計画通り学習を進めていくようにアドバイスを行う。
 - ・英語音読暗唱ブック「Rainbow」の活用

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭学習の定着
 - ・各教科における宿題、週末課題、自学ノート、英語暗唱音読カード等の継続指導。
 - ・家庭学習チャレンジハンドブックの確認と呼びかけ
 - ・学校便り、ホームページ、PTA理事会等による保護者への啓発
- 学習計画表の作成と記入
 - ・生活ノート等を使い、学習の計画と記録を記入し、担任等が確認、アドバイスを行う。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知